

2020年度 JICA地球ひろば主催
国際理解教育/開発教育指導者研修

国際理解教育/開発教育における JICAリソース/教材と活用例

研修アドバイザー 森茂 岳雄

内容

1. JICAリソースについて

- 1-1. 資料館・展示スペース
- 1-2. 出版物
- 1-3. 写真
- 1-4. 人

2. 教材/資料集について

- 2-1. 映像教材
- 2-2. 子供向け教材
- 2-3. 教員/大人向け教材

3. JICAリソース/教材を活用した授業づくりの例

- 3-1. JICAリソース/教材から授業をつくる
- 3-2. JICAリソース/教材を授業に活用する
- 3-3. mundi特集を活用した課題づくり

1. JICAリソースについて

1-1.資料館・展示スペース

・地球ひろば体験ゾーン(市ヶ谷、北海道、名古屋)

SDGsやプラスチックごみ、スポーツ等をテーマにした展示を実施



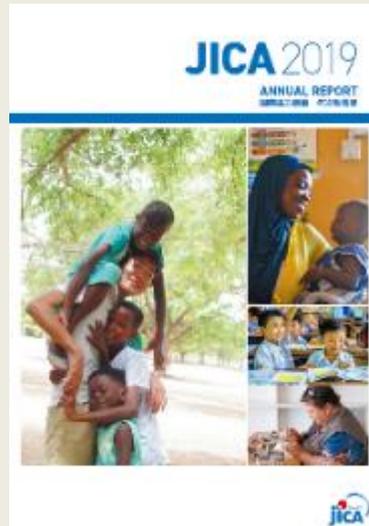
・海外移住資料館 (横浜)、その他各国内拠点(全15拠点)

1-2. 出版物

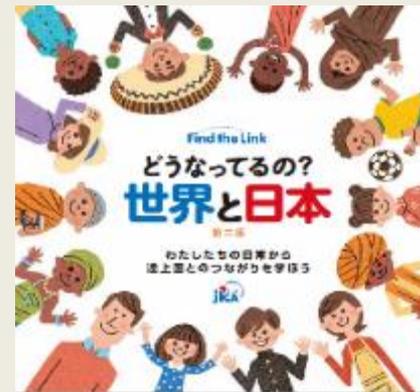
広報誌mundi



年次報告書



パンフレット



マンガ



広報誌mundiについて

途上国の課題や、日本の取り組みについて、データや歴史的経緯とともに記載
 課題、地域など毎月様々なテーマの特集で発信。



2018年12月号



広報誌mundiについて

JICAのHPにて、過去8年分のバックナンバーを閲覧・ダウンロード可能



2017年9月号

毎月 900円に読者の声 新たな時代の開拓者

こんなところにも！ 身近なSDGs

SDGsが目標とする持続可能な社会づくりに対し、さまざまなイノベーションが必要だ。企業は持つ技術やアイデアは、環境・社会課題解決の大きな鍵となるべきである。

誰にでも分かりやすい「ユニバーサルデザイン」を 大日本印刷株式会社

まだ食べられるものを捨てる「フードバンク」 株式会社フードバンク・ジャパン

高品質加工で女性の仕事をつくる 大辰建設株式会社

送付の売場で電気を振り回す 株式会社Gnd

日本校の「スロースティ」として世界 宝塚研究所

水道を使わずにオフィスで紙を再生 マイコエスプリン株式会社

高品質コーヒーで収入を増やし、森を保護 UCC上興株式会社

製菓用パルプは自然グループの緑で エイビービージャパン株式会社

「誰にでも分かりやすい」ユニバーサルデザインとは、障害のある人もない人も、誰もが安心して使えるように設計された製品やサービスのこと。大日本印刷は、ユニバーサルデザインを推進し、誰もが安心して使える製品やサービスを提供している。

「まだ食べられるものを捨てる」フードバンクとは、食料を無駄にせず、必要としている人に届ける活動のこと。株式会社フードバンク・ジャパンは、食料を無駄にせず、必要としている人に届ける活動を行っている。

高品質加工で女性の仕事をつくる。大辰建設は、高品質加工で女性の仕事をつくる。大辰建設は、高品質加工で女性の仕事をつくる。

送付の売場で電気を振り回す。株式会社Gndは、送付の売場で電気を振り回す。株式会社Gndは、送付の売場で電気を振り回す。

日本校の「スロースティ」として世界。宝塚研究所は、日本校の「スロースティ」として世界。宝塚研究所は、日本校の「スロースティ」として世界。

水道を使わずにオフィスで紙を再生。マイコエスプリンは、水道を使わずにオフィスで紙を再生。マイコエスプリンは、水道を使わずにオフィスで紙を再生。

高品質コーヒーで収入を増やし、森を保護。UCC上興は、高品質コーヒーで収入を増やし、森を保護。UCC上興は、高品質コーヒーで収入を増やし、森を保護。

製菓用パルプは自然グループの緑で。エイビービージャパンは、製菓用パルプは自然グループの緑で。エイビービージャパンは、製菓用パルプは自然グループの緑で。

1-3. 写真

フォトライブラリー(写真貸し出し可能)



1-4. 人

職員、JICA海外協力隊員、専門家 → 国際協力出前講座

地球案内人 → 地球ひろば訪問（ボランティア体験談、地球体験学習）



2.教材／資料集について

2-1. 映像教材 授業で使えるショート映像集(アクティブラーニング教材)



世界と教室をつなぐ
映像・教材資料集



難民

- ・ 国を逃れる人々 (外部サイト: YouTube)
- ・ 逃れた後の生活 (外部サイト: YouTube)



イスラム

- ・ イスラムの概要 (外部サイト: YouTube)
- ・ 世界各地のイスラム (外部サイト: YouTube)
- ・ 差別・排斥されるイスラム教徒 (外部サイト: YouTube)
- ・ 日本に暮らすイスラム教徒 (外部サイト: YouTube)

2-1. 映像教材 授業で使えるショート映像集(アクティブラーニング教材)



国際協力

- ・ [国際協力・ODAとは \(外部サイト : YouTube\)](#)
- ・ [日本の国際協力・ODA事業の事例 \(外部サイト : YouTube\)](#)
- ・ [課題を共に解決する国際協力 \(外部サイト : YouTube\)](#)



教育

- ・ [アフリカ・ニジェールの教育課題 \(外部サイト : YouTube\)](#)
- ・ [課題解決のための「みんなの学校プロジェクト」 \(外部サイト : YouTube\)](#)
- ・ [「みんなの学校プロジェクト」に取り組んだ成果 \(外部サイト : YouTube\)](#)

2-1. 映像教材 授業で使えるショート映像集(アクティブラーニング教材)



「水と世界」を知る映像

- [世界をめぐる水（水の循環）（外部サイト：YouTube）](#)
- [ルワンダってどんな国？（外部サイト：YouTube）](#)
- [ルワンダの都心部の子ども的一天（外部サイト：YouTube）](#)
- [ルワンダの村落部の子ども的一天（外部サイト：YouTube）](#)
- [海をわたるプラスチックごみ（外部サイト：YouTube）](#)

[「水と世界」](#) [「国際協力」](#)

2-1. 映像教材 授業で使えるショート映像集(アクティブラーニング教材)

「国際協力」を知る映像

- ・[もし水がなかったら…\(外部サイト:YouTube\)](#)
- ・[水分野の専門家・黛さんの場合](#)
- ・[/ルワンダ水衛生公社・バヒゲさんの場合\(外部サイト:YouTube\)](#)
- ・[JICA海外協力隊・富田さんの場合\(外部サイト:YouTube\)](#)

映像教材を授業で使うときのヒント映像・活用のための参考資料も付属

- ・[この映像教材を授業で使うヒント\(外部サイト:YouTube\)](#)
- ・[映像教材活用のための参考資料\(PDF/993KB\)](#)

2-2. 子供向け教材

小冊子：ぼくら地球調査隊(漫画で学ぶ、地球規模の課題)

全国16,000校の小学校・中学校の掲示板に掲載された「産経ペイドパブリシティ(通称:壁新聞)」を教材化した小冊子



2-3. 大人向け教材

- 国際理解教育実践資料集 (ワークショップ付き)



- 教師海外研修授業実践報告書(各拠点ごとに作成)

3. JICAリソース/教材を 活用した授業づくりの例

～パフォーマンス課題とルーブリックを用いた授業づくり～

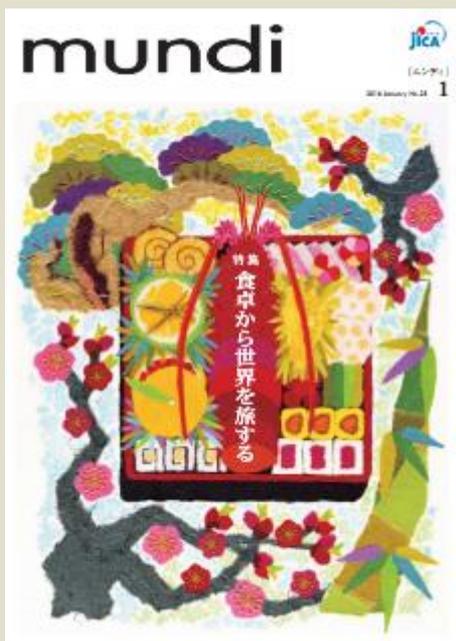
3-1. JICAリソース/教材から授業をつくる

- パフォーマンス課題のつくり方
 1. 単元を貫き、探求を促す問い(本質的な問い)を設定する
 2. 学問の中心にあり、「理解」の中でも最も重要なもの(永続的理解)を明文化する
 3. パフォーマンス課題のシナリオをつくる
 4. ルーブリックをつくり、それによって評価する

課題例：世界の森の現状を示した図を見て、わかったことを話し合ってみよう。
 途上国に 森林が減少している理由を考えてみよう。
 森林の減少は私たちの生活にどのような 影響を与えるか。(地球温暖化)
 森を守る取り組みについて調べてみよう。(REDD+) (2015年8月号)



3-3. mundi特集「食卓から世界を旅する」(2016.1)を活用した課題づくり



3-3. mundi特集「食卓から世界を旅する」(2016.1)を活用した課題づくり

② 食材別食料自給率の変化

出典：『輸送別食料自給率（カロリー・エネルギー・食料自給率）』農林水産省

食材	1965年 (%)	2014年 (%)
小麦	95	97
野菜	100	80
果実	90	43
肉類	90	55
魚介類	100	54

※2：重要ベースの食料自給率。[国内生産量 / 国内消費量] × 100

① 日本の食料自給率の推移

出典：『平成25年度食料自給率について』農林水産省

自給率低下の要因

〈生産面〉国内生産力の低下

- 1ha以上の農業産物の割合: 21% (1975年) → 62% (2010年)
- 農作物産額: 607万ha (1960年) → 459万ha (2010年)
- 耕作放棄地: 13万ha (1975年) → 40万ha (2010年)

〈需要面〉食生活の変化

- 米の消費の減少: 112kg/年 (1965年) → 59.5kg/年 (2010年)
- 畜産物などの消費増大 (肉類): 9.2kg/年 (1965年) → 29.1kg/年 (2010年)
- 油類の消費の増加: 6.3kg/年 (1965年) → 13.5kg/年 (2010年)

日本の食と世界のつながり

食料自給率が4割に落ちた日本。私たちの食生活は、世界各國から輸入される食品がなくては成り立たない。テータを通して、食卓の背景にある変化や、世界とのつながりを見てみよう。

③ 輸入品目の国・地域別割合 (2014)

出典：『農林水産物輸入状況 2014年』(平成26年) 農水省

生鮮・乾燥果実

国・地域	割合 (%)
オーストラリア	34.5
その他	14.45
ニュージーランド	8.2
メキシコ	7.7
チリ	2.7

エビ

国・地域	割合 (%)
インド	16.8
ベトナム	20.9
その他	16.2
タイ	6.6
インドネシア	16.7
中国	5.9
ロシア	4.2
カナダ	5.5
アルゼンチン	7.3

73% (1965年) → 39% (2014年)

※1：カロリーベースの食料自給率。(1人1日あたり1日単位供給量 / 1人1日あたり消費量) × 100

今日、食事をするとともに、料理が食卓にとどまるまでの過程を少しでも考えてほしい。世界のさまざまな国とのつながりが見えてくるかもしれない。

3-3. mundi特集「食卓から世界を旅する」(2016.1)を活用した課題づくり

- 「本質的な問い」:

- ▶ 単元の中核部分に位置しており、
また生活との関連も見えてくるような問い

- ⇨「日本の食料自給率が低下した要因は何か？」

- ⇨「途上国の食料の生産・加工に関する日本の支援はどのように変わってきているか？」



3-3. mundi特集「食卓から世界を旅する」(2016.1)を活用した課題づくり

- 「永続的理解」:

- ▶ 「理解」の中でも特に重要なもの

- mundiの記事の中から見つけてみよう。



「小麦、大豆、トウモロコシといった広大な農地を必要とする土地利用型農業では、アメリカやオーストラリアなどには太刀打ちできない。高齢化によって、日本国内の農業の足腰が弱くなっている。」

「日本の支援も、生産性をあげるための取り組みから、加工や流通機能の強化など、商品に付加価値をつけるための取り組みへと変わりつつある。」

3-3. mundi特集「食卓から世界を旅する」(2016.1)を活用した課題づくり

- パフォーマンス課題

- ▶リアルな文脈(日常生活や仕事の場)において、知識やスキルを総合して

- 使いこなすことを求めるような課題

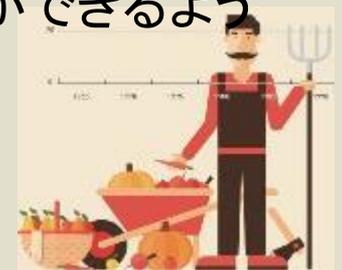
<シナリオ例>

- ▶JICAの会議で途上国の食料支援について話し合うことになりました。

- 会議の参加者になって、「なるほどなあ・・・」と思わせることができるようなプレゼンをしてください。

<パフォーマンス課題例>(プレゼンテーション)

- 「それぞれの国に合った支援の戦略を提案してみよう！」



3-3. mundi特集「食卓から世界を旅する」(2016.1)を活用した課題づくり



• ルーブリック

▶ パフォーマンスの成功の度合いを示す数レベルの程度の尺度と、それぞれのレベルに当てはまるパフォーマンスの特徴を説明する記述 後から構成される、評価基準表のこと。

<参考文献>

- ・ 西岡加名恵編 (2008) 『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』 明治図書
- ・ 三藤あさみ・西岡加名恵 (2010) 『パフォーマンス評価にどう取り組むかー中学校社会科のカリキュラムと授業づくりー』 日本標準
- ・ 松下佳代編 (2015) 『ディープ・アクティブラーニング』 勁草書房
- ・ 中井俊樹編 (2015) 『アクティブラーニング』 玉川大学出版部
- ・ 日本国際理解教育学会編 (2015) 『国際理解教育ハンドブックーグローバル・シティズンシップを育むー』 明石書店

参考:プレゼンテーション用ルーブリックの例

【採点方法】合計得点を換算する

13点-15点 : 評価5

10点-12点 : 評価4

7点- 9点 : 評価3

4点- 6点 : 評価2

1点- 3点 : 評価1

プレゼンテーション用ルーブリック

	3	2	1	0
内容 ①調査 ②テーマに沿っている	十分に調べられている	調べられている	不足している	全く不足している
構成 ①論理性 ②適切な量	十分、論理的に構成されている	論理的に構成されている	論理的な構成が少し不足している	論理的な構成ができていない
資料 ①文字の大きさ ②図表的的確さ	十分に説得力のある資料である	説得力のある資料である	説得力が不足している	説得力がない
発表姿勢 ①視線 ②声量 ③スピード	堂々と聴衆を見ながら声量も十分に適切なスピードで発表できている	視線や声量、話すスピードともに一定のレベルに達している	視線、声量、話すスピードを改善する必要がある	発表態度全体を大きく改善する必要がある
発表時間	時間配分が適切である	ほぼ時間内である	時間が少し超過している、あるいは少し短い	時間が大幅に超過している、あるいは大幅に短い

出典: http://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/teacher/files/AL2/AL2B_8_tmp2.pdf

※参加される教員の皆さまへ

本パートのスライド(スライド17～27)で紹介した授業づくり案【パフォーマンス課題とルーブリックを用いた授業づくり】は、あくまでも参考例です。

全ての授業づくりにパフォーマンス課題やルーブリックを作成する必要はなく、参加者ご自身で自由な方法で授業づくりを考えていただければと思います。